

「パラリンピック閉会式前日の聖火台周辺」

2021年9月4日（土） 東京2020大会 シティキャスト

「聖火台周辺における来場者への声かけ、大会情報の提供」

13:30～17:00 天候曇り 都内感染者数2362名



↑マスコットの前の記念撮影

↑聖火台に向かうシティキャスト

↑寄せ書き



↑電光掲示板のみ見えるブラインドサッカー

↑スリーアギトス

↑聖火台を見る人々

（寄せ書き以外の写真は非活動日に撮影、シティキャスト被っているのは日傘）

1、シティキャストを拍手で見送る事務局の皆さん

シティキャストとしての2カ所目の活動場所が台場にある聖火台周辺です。パラリンピック閉会式の前日での活動となりました。大崎駅からりんかい線に乗ると1車両に2、3名はフィールドキャストのユニフォームを着ている方を見かけます。

控え室は台場にある大学の教室です。13:30開始の方は20名で「感染症対策」「活動中の撮影NG」「直行直帰」「大きな声での会話・呼びかけNG」などの全般説明後、全員の自己紹介が行われました。その後、マスコット台（写真左上）でのタオル、うちわの配布と熱中症・感染症注意の呼びかけ、聖火台前（写真右下）では「立ち止まってお進みください」とプラカードを持つ方などのグループに分けられました。

私は7名のメンバーとマスコット前の撮影スポット前での熱中症対策タオルとうちわの配布を行ないました。控え室を出るときに事務局の皆さんが拍手で見送っていただきました。マラソン大会等で拍手で見送ることはあっても、拍手で見送られるのはおそらく初めてで、新鮮な感激を味わいました。

2、30分活動1時間休憩30分活動のローテーション

マスコット前に着くと、手渡しNGと撮影を頼まれたときは必ず手指消毒する旨の説明を受けました。当日は小雨が降り、マスコット前でもさほど撮影に並ぶ方は多くはありませんでした。最も多かったのはボート会場の帰りのフィールドキャストの皆さんでした。本日が最終日だったそうですが、「(活動が)楽しかった」と言っていて、こちらまで楽しい気持ちになりました。

私が主にしていたのが消毒スプレーをかけることで、お子さんからご年配の方までの手ばかりを見ていました。30分活動後に1時間休憩（移動時間含む）また30分活動後、反省会というローテーションであつという間の活動でした。

反省会では聖火台が設置されているのに、自粛を促すことに後ろめたさを感じたという意見もありました。事務局の方が「明日で終わるのが名残惜しくて…」と話されていたのが印象的でした。マスコットや聖火台もあさってには撤去され、事務局の皆さんも別の職場に移られると思います。閉会式を翌日に控えた台場を跡にいたしました。